

平成 29 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座 講師
氏名 Name	安田麗
専門分野 Academic Field	音声学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	外国語学習における音声習得プロセスに関する研究
<p>ドイツ語学習における英語の転移と干渉に関して、音声習得面の発音能力（生成面）と聞き取り能力（知覚面）について明らかにするために、①基礎的な音声データ資料の作成、②音声データの比較対照、③聴覚実験、をおこなった。</p> <p>これまでのデータを補完するために、引き続きドイツ語を第二外国語として学習している人を対象にした発話実験を行った。より多くの音声データの収集と分析を行うことで、より客観的な音声データ資料の作成を目指す。さらに、ドイツ語母語話者の発話データの収集とデータの分析も同様に行った。本年度は知覚面からの研究に主に取り組み、①の研究においてすでに得られた基礎資料をもとに、刺激音声を作成し③聴覚実験を行った。予備実験としてドイツ語母語話者を対象に語末閉鎖子音をどのように知覚しているかを調べた。その結果、ドイツ語母語話者は語末閉鎖子音を音響的特徴を手がかりに発音上は区別の無い単語をおよそ 6 割の正答率で聞き分けていることがわかった。今後、予備実験の結果を踏まえて聴覚実験の修正を行い、さらに対象を広げて実験を行う予定である。</p> <p>音響分析では引き続き、英語とドイツ語、ロシア語における語末閉鎖音の有声音と無声音の実現に焦点をあて調査を行っている。現在までに分析を行った音声データでは、日本語を母語とするドイツ語学習者のドイツ語の発音は、語末閉鎖音の無声化が不完全であること、一方、ロシア語学習者の発音はドイツ語学習者に比べて語末閉鎖音の無声化が実現できていることが観察された。さらに英語の発音では、ドイツ語学習者およびロシア語学習者による語末閉鎖音の有声音と無声音の差が英語母語話者に比べて明瞭ではないことが観察された。これは、ドイツ語の発音では英語の影響を受けていること、英語の発音ではドイツ語やロシア語の影響を受けていること、つまり交差言語的な干渉を示唆するものであると考える。</p>	